



## 住民が主役の支え合いの仕組みづくり ～意見交換会の開催を通して～

新温泉町社協では、第1次地域福祉推進計画(平成26～28年度)において、活動目標の一つに「住民が主役の地域福祉の推進と安心して生活できる地域づくりの支援」を掲げ、住民主体による地域福祉活動の推進を目指している。

### 社協の役職員全てが関わる意見交換会

新温泉町社協では、これまでいきいきサロンの立ち上げ・運営支援や、配食サービスによる定期的な見守りなどを通じて、小地域福祉活動を推進してきた。その活動を基盤に、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加する中、平成26年度より集落での意見交換会(住民座談会)の開催を通して「支え合う地域の福祉力」をさらに高めることを目指している。

意見交換会は、対象を限定せず誰もが参加できるようにし、集落によっては20～30代男性の参加者もいる。また、個別の集落で開催が難しい場合は、複数の集落をあわせて開催するなどの工夫もしている。

社協からは毎回、地区担当や介護保険事業所等の職員、事務局長の他、役員も必ず出席している。役職員全てが関わる目的は、地域住民の声を聞いて課題やニーズを把握し、社協の全ての活動や事業に生かしていくことにある。また、役員が関わることにより、実際の理事会等でも地域の実情を踏まえた協議が可能となっている。



意見交換会で  
住民グループ  
ワーク

### 地域ごとのニーズに合った 支え合いの仕組みづくり

意見交換会の主な内容は住民同士のグループワークで、①ここに住んで良かったこと、②生活する上での困り事、③解決方法、について模造紙や付箋を使い、協議している。買い物や通院の際の移動手段等の困り事が共通の課題として出され、解決方法として「支え合い」などを挙げる集落が多い。協議を継続する中で、ごみ出しや買い出しなどの役割を分担し、自分たちの生活を支えていこうという集落も出始めており、社協と一緒に検討を進めている。

岡本事務局長は、「住民が自分たちのこととしてやるという思いに寄り添い、その集落のニーズや課題に沿った支え合いの仕組みをつくっていききたい。まずは、地域における支え合いを意識してもらうために意見交換会を開催し、次につなげたい」と話す。意見交換会と併せて社協では、集落ごとの自治会役員や民生委員児童委員、福祉委員等が連携した支え合い組織の設置等も目指している。住民が主役の地域づくりのプロセスに、どう社協が寄り添い進めていくか、模索しながらの取り組みに今後とも注目していきたい。



作成した模造紙  
は、地域の拠点を  
貼り出します

### 取材を終えて

意見交換会では、集落の困り事だけではなく、ここに住んで良かったこと＝集落の強みがたくさん出されています。活動の担い手でもあり支え手でもある住民自身の、強みを生かした協議の場が、社協の支援によって展開されていく今後が楽しみです。

### 会長から 新温泉町社会福祉協議会 会長 倉内 晋

新温泉町は、県北西部に位置する県社協より一番遠い町です。合併後に初めて策定した地域福祉推進計画に基づき、3年前より集落に向き、「意見交換会」を実施しています。その際、社協職員だけでなく、それぞれの地域に応じて理事も参加し、地域の「生の声」を聴くようにして、その後の理事会等の協議に生かしています。「ささえあい いきいきと自分らしく暮らせる町づくり」を目標に、町民皆さまより「求められている社協とは何か？」を日々探りながら地域の支え合う力(福祉力)を高めていくための取り組みを進めてまいります。

